



射水市名誉市民

い し ぐ ろ む ね ま ろ
石黒 宗磨

Ishiguro Munemaro

生年月日～没年月日

明治26年4月14日 生
～ 昭和43年6月3日 没

決定年月日

昭和30年12月22日議決

主な経歴

陶芸家
人間国宝(重要無形文化財保持者)

功績

石黒宗磨は、射水郡作道村久々湊(現射水市)出身の陶芸家です。

中国陶器に魅せられ、本格的な作陶を始めたのは、昭和3年、京都・^{じゃがだに}蛇ヶ谷に移った35歳のころからです。当時は、宋磁などが日本に紹介されたばかりのころで、偶然、向かいに住んでいた生涯の親友となる小山富士夫(※)とともに、作陶の研究に没頭しました。

昭和11年、京都・八瀬に自らの窯と家を築き、中国陶器を師として75歳で没するまで、この地で作陶を続けます。^{かきゆう えごうらい せんてんもん このはてんもく}柿釉、絵高麗、千点文、木葉天目(※)など、宋代の焼き物の再現に成功、それらを基本に自らの芸術性をさらに高めていきます。そして昭和30年に「^{てつゆう}鉄釉陶器」の技術保持者として、陶芸家で初の人間国宝(重要無形文化財保持者)に認定されました。

「器という制約の中に作者の持っている境地、人格、思想を盛る。それが芸術だ。」(宗磨談・朝日新聞。昭和36年2月28日)。陶芸のみならず、詩・書・画に優れた文人でもあり、我が国の近代陶芸を代表する作家として、近年、その評価はますます高まっています。

- ※ 小山富士夫 (明治33年～昭和50年) 岡山県出身の陶芸家、陶芸研究家。
- ※ 柿釉 鉄釉の一種。伝統技法では、還元焼成によって柿色になる。
- ※ 絵高麗 中国・磁州窯の鉄絵物を指す。
- ※ 千点文 白化粧、鉄釉を施した後、細かいたくさんの点を表面に表した焼物。
- ※ 木葉天目 黒釉を使った器に木の葉の形が浮き出たもの。天目は、中国の地名に由来する抹茶用の陶器。